医心 伝心

勤務医の視点での医師会改革

県医副会長 泉 良平

平成22・23年度日本医師会勤務医委員会は、日本医師会の視点「全ての医師の協働に果たす勤務医の役割」について、2年間にわたり協議して得た答申を原中日本医師会会長に提出した。勤務医委員会が協議してきた主な内容は、「勤務医の視点からの医師会改革には何が必要なのか」であり、日本医師会会員数が減少し弱体化が懸念される日本医師会への勤務医の組織化による医師会改革の視点であった。その他、医師法21条問題や女性医師問題、医療安全・メディエーションなどが合わせに議論してきた。その答申および議事録は日本医師会ホームページからご覧いただけるので、ご一読いただけると幸いである。

既に周知のように、医師数が数年間増加しているにもかかわらず日本医師会会員数は減少している。戦後初めての異常な事態であり、このこと自体が日本医師会の弱体化を示しているといえども過言ではない。このことの原因は、勤務医が医師会活動に目を向けることなく、医師会への加入に何ら意味を見つけることができないことにある。メリット論では勤務医が医師会活動に加わることはないと断じるを得ない。一方、医師会への勤務医会入会が進んでいる医師会も見られる。例えば、鹿児島県医師会では、勤務医を含めた組織率は90％を超える。3千名余りの県医師会員のうち67％余りが勤務医であり、いかに県医師会が勤務医に信頼されているかの証でもある。無論、一朝一夕にこのことが叶ったわけではない、粘り強し医師会の勤務医へのかかわりがあったからにはならない。医学部生へのかかわりを持ち、医師会活動への理解を深めるなどの様々な活動をとおして到達した組織率である。

勤務医が医師会活動へ参加しない、あるいはできない理由については、先に述べた日本医師会勤務医委員会の答申をお読みいただくことで、ご理解願えと思うが、医師会が勤務医の権利を守ることが勤務医参加への道を開くのではないか。鹿児島県医師会では、県医師会長を勤務医を交えたすべての会員の直接選挙で選んでいる。直接選挙を行うことで会員すべてに医師会活動を理解していただくことも、医師会の組織率を上げるうえで有効ではないかとも考えている。今回の日本医師会長選挙では、勤務医の組織率を80％にまで上げるとの思いがすべての候補者から述べられているように、まさに勤務医の組織化と医師会改革は喫緊の課題である。

富山県医師会では、これから医師会の未来像を考える組織を構築し検討する予定となっている。すべての医師の権利を守り、県民の健康を守るための医師会を組織できれば、富山県医師会の新たな地平線が見えてくるのではないかと考えることの多い日々である。